

第 65 回 中世のドイツ・イタリア・北歐

1 中世のドイツ地域

- ドイツ地域では、962 年に（ ）が成立していた。
→しかし歴代の皇帝は（ ）に熱中したため、神聖ローマ帝国内の諸侯は（ ）と呼ばれる半独立の地方主権国家となっていた。



フリードリヒ1世

- ◆（ ）（赤髭王）（シュタウフェン朝）（在位 1152～1190 年）
 - イタリア政策を行ったが、北イタリアの都市は（ ）を結成して皇帝に対抗した。
 - 第3回十字軍に参加したが、途中の川でおぼれ死んだ。



フリードリヒ2世

- ◆（ ）（シュタウフェン朝）（在位 1215～1250 年）
 - ローマ教皇に破門されたため、しかたなく第5回十字軍を起こした。
→アイユブ朝と和平を結び、聖地エルサレムを平和的に回復した。



カール4世
本拠地のプラハに
プラハ大学を建て
たことで知られる。

2 大空位時代

- 1254 年、シュタウフェン朝が断絶すると、1273 年まで神聖ローマ皇帝が事実上決まらない（ ）となった。

- ◆（ ）（ルクセンブルク家）（在位 1347～1378 年）
 - 1356 年、（ ）を發布して聖俗7人の大諸侯を（ ）とし、神聖ローマ皇帝を選ぶ選挙権を与えた。



ジギスムント
カール4世の息子。
妻がハンガリーの
女王であったため、
彼自身もハンガリー
王を兼任した。

- ◆ジギスムント（ルクセンブルク家）（在位 1411～1437 年）
 - ハンガリー王時代の 1396 年、（ ）でオスマン帝国のバヤジット1世と戦ったが敗れた。
 - 1414 年、（ ）の開催を提唱した。
→1378 年より続いていた（ ）を終わらせた。
→イギリスの（ ）とベーメン（ボヘミア）の（ ）を異端とし、フスを火あぶりとした。
→これに反発したベーメンでは、（ ）という反乱となった。

- 15 世紀前半以降、神聖ローマ皇帝は（ ）から出されるようになったが、神聖ローマ帝国は約 300 の領邦に事実上分立する状態が続いた。



バヤジット1世

オスマン帝国の第4代スルタン。素早く軍を動かすことから、稲妻の異名をとった。しかし最後はティムールに敗れた。第80回も見よう。



ウィクリフ

オクスフォード大学教授で、13世紀に聖書の英語訳を行ったことで知られる。コンスタンツ公会議が開催された時には、すでに病死していた。



フスの火刑

フスはプラハ大学の学長で、贖宥状(免罪符)を販売する教会を痛烈に批判していた。フスは公会議で身の安全を保障されていたにもかかわらず、裁判にかけられ処刑された。第89回につづく。

3 中世のイタリア

・中世のイタリアでは、() が断絶した後、分裂状態となっていた。
 ・また神聖ローマ帝国によるイタリア政策も、分裂状態を複雑にしていた。

- ・北イタリアでは、() ・ジェノヴァ共和国 ・ミラノ公国 ・ () などの都市国家が成立した。
- ・また各都市では、介入してくる神聖ローマ皇帝を支持する () と、ローマ教皇を支持する () の対立も発生した。
 →イタリアの統一をさらに困難にした。
- ・南イタリアでは、ノルマン人が建国した () が存在した。
 →13世紀、「シチリアの晩鐘」の結果、シチリア王国とナポリ王国に分裂した。



ヴェネツィア

アドリア海に面したヴェネツィア共和国は、イスラーム世界との交易を行い、「アドリア海の女王」と呼ばれる繁栄を手にした。



映画『ロミオとジュリエット』

『ロミオとジュリエット』のストーリーは有名だが、なぜ両家の仲が悪いのかは、あまり知られていない。ギベルンとゲルフの対立が背景にあった。



シチリアの晩鐘

晩鐘とは、夕方に鳴る教会の鐘のことである。反乱が始まった時に、教会の鐘が鳴り響いたことから、名前がついた。

4 その他の地域

- ・14世紀末、デンマーク女王 () の主導で、デンマーク・スウェーデン・ノルウェーの同君連合である () が成立した。
- ・ウラル語系のフィン人は、13世紀にスウェーデンに征服された。
- ・ハプスブルク家が支配していた () では、13世紀から独立運動が起こり、15世紀末には神聖ローマ帝国から事実上独立した。



マルグレーテ
カルマル同盟によって成立したデンマーク連合王国は、ハンザ同盟に対抗する目的があった。

